



昔の金山町の子供達はスキーで登校してたそうですね
カムロの迂回コースでクロスカントリーの出番ですよ!
作者:小栗こぐり

KANEYAMA 地域おこし 協力隊がゆく!

柴田琢磨 隊員



金山町に来て二度目の冬が訪れました。雪が降り積もるスピードが早く、昨年より雪が多いように感じます。

昨年は多くの方に大変お世話になった年でした。バーチャルリアリティ（※以下、VR）の観光パンフレットも形になりつつあり、山形や東京で展示をさせていただく機会に恵まれました。VRということで、若い方や家族連れの方に興味を持っていただき、金山町に訪れたことのない人にも魅力を伝えていければ良いと思います。また、VRによる宣伝活動の一環として、小学校と協力してVR技術を取り入れたワークショップ形式の授業のような実験的な取り組みもさせていただきました。初めての試みでしたので、色々不安もありましたが、教員の方にサポートしていただき魅力的な授業を行うことができました。生徒たちも熱心に授業に取り組んでくれて、今回の授業が生徒たちの今後の糧になってくれれば良いと願っています。今後は、年度中のアプリ配信を目指し、がんばっていききたいと思います。

また、昨年は谷口がっこそばの全焼という非常に悲しい出来事がありました。僕も組合に参加しているため、何度もお世話になりましたが、町外からたくさんの方の励ましの言葉などをいただき、多くの方に愛されていた場所だったのだと改めて感じています。現在、組合として、そういった声にどういう形で答えていくか検討段階ではありますが、前向きに頑張っていきたいと思っております。今後とも応援よろしくお願ひいたします。組合代表の菅谷くんも、現在は神室の管理棟2階で喫茶店の営業をしておりますので、お時間ある方はぜひ遊びに行ってみてください。それでは、今年もよろしくお願ひいたします。

「森の子ども図書コーナー」

交流サロンぼすと内

No.146



『おもいで星がかがやくとき』
(刀根里依/作 NHK出版)

そのひとはあの日、ピナをおいていなくなってしまった。なかまたちはこう言います。「ピナの大切なひとは、お星さまになったんだって」「とおくからきみのことを見守っているんだよ」「だから元気を出して」ピナは「じゃあわたし、そのお星さまに会いに行ってくる」と言って歩き始めました。ふたりがよくいっしょに泳いだ海、よくいっしょに遊んだ水辺、よくいっしょにかくれんぼした花畑、よくいっしょに歩いた池のほとり。そこでホテルから、森で一番高い木の上ののぼるといいよと教えてもらいます。ピナはまた歩き始めました。

「図書室だより」

中央公民館内 9:00 ▶ 16:00



▼ねこ町駅前商店街日々便り
柴田よしき/祥伝社



▼うつつヌケ
田中圭一/角川書店

赤字ローカルの終点・根古万知。駅前はずか8店舗ほどが細々と営業するシャッター商店街。数年前に「ねこまち」としてブームになったがそれも一時のこと。しかしひょんなことから愛美の飼猫が一日駅長をすることに。町はどうなっていくのか? 甦れ! 商店街魂! シャッター通りだって私たちがふるさと。

作者がうつトンネルを脱出するきっかけになったのは、たまたま立ち寄ったコンビニに置いてあった一冊のうつに関する本を手にとったこと。長年うつトンネルを彷徨った作者を出口に導きました。これは作者とその他著名人の経験をマンガで描かれています。この本もトンネルを抜ける一冊の本になれるといいですね。

2月新刊本

- ねこ町駅前商店街日々便り / 柴田よしき
- 老いてひとりを生き抜く / 三浦清一郎
- お雑煮マニアックス / 長坂嘉昭
- キラキラ共和国 / 小川糸
- 彼方の友へ / 伊吹有喜
- 火喰鳥 羽州ぼろ鳶組 / 今村翔吾
- 夜哭鳥 羽州ぼろ鳶組 / 今村翔吾
- おらおらでひとりいぐも / 若竹千佐子
- 東北のしきたり / 鈴木士郎・岡島慎二
- おもかげ / 浅田次郎

金山町の人口は、5,674人

12月末現在

- 男性 2,757人 (-5)
- 女性 2,917人 (-7)
- 世帯数 1,769世帯

▶12月の異動 ●出生/2人 ●死亡/10人
●転入/7人 ●転出/11人

編集 幸記

▼つい先日新年を迎えたかと思いきや、もう2月。4日は立春、暦の上ではもう春です。筆者も今年で三十路。なんだか歳を重ねるごとに、月日の経過が早く感じるようになった気がします。まさに「光陰矢の如し」ですが、実はこのことわざには続きがあるよう。「一寸の光陰軽んずべからず」。時間は皆に平等、一日一日を大切に過ごしたいものです。

▼私事ですが、先月第一子が誕生しました。わが子に限らず、次世代が故郷金山を誇れるきっかけとなるような「広報かねやま」を目指し、気合いを入れ直して制作していきたいと思っております。(つま)

金山杉俳句会報 第四十二回

- 細雪音無く降りぬ夜の読書 昭子
- 銀嶺の陽に輝ける冬の朝 洋子
- 毛玉とりまだ捨てられぬ冬帽子 洋子
- 一つだけ日向に赤し寒椿 サダエ
- 干柿の雀をじっと見てをりぬ 敏子
- 白壁の大屋根囲む冬木立 敏子
- 八十の正月仕度予定表 敏子
- 灯をともし零下の厨やきしきしと よし子
- 福耳も齡に勝てぬちゃんちゃんこ 余生なほ為すこと多き師走かな よし子
- 凍てる夜や一番星の淋しさよ 順子
- 老ひつつも小さき夢あり冬銀河 順子
- かねやま紅風会 荒屋 阿部 勝子
- しんしんと眠りの深き冬銀河 荒屋 関 喜美子
- 足早に行き交ふ人ぞ年の暮 荒屋 関 喜美子
- 葉の向きに心残りり年の花 菅越 庄司けみ子
- 家路へと急ぐ足もと冬の月 菅越 庄司けみ子
- 拭きながら柱の疵の年忘れ 菅越 庄司けみ子
- 愛犬の吐く息白し走り去る 菅越 庄司けみ子
- 梅一輪部屋を和ます朝かな 七日町 柴田 栖静
- お慈悲への感謝の日々や年暮る、 七日町 柴田 栖静
- 年の花活けて安堵の茶をすゝり 羽場 坂本徳太郎
- 幸あれと願ひて飾る初暦 羽場 坂本徳太郎
- 診察の予約かきこむ初日記 上 阿部 一
- 師走の陽まねくや床の植木鉢 上 阿部 一
- 極まりし三坂峠の初景色 七日町 村松 姿風
- 身障の妻の手を執る寒の入り 七日町 村松 姿風
- 三界をつなぐ安らぎ除夜の鐘 七日町 村松 姿風
- 年の瀬や儂さいだき喪にこもる 七日町 村松 姿風